

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

議長より登壇の許可をいただきましたので、一般質問を始めたいと思います。

私は今回、一番少ない1項目でございます。宮本議員の質問項目が上にべらっと書いてあるわけですが、寂しい限りでございます。負けずにやりたいと思っております。

先日、新聞で古川知事が、暮らしの豊かさを実感できる県を目指すというようなことを言っておられました。当市の樋渡市長はぬくもりのある町をと、ぬくもりのある市をとということを言われます。どちらも共通したようなことであろうと思います。さて、私が今通告をいたしております少子・高齢化の問題で、まず少子化の問題でございます。

子供は国の宝と言われます。全国的に少子・高齢化、居住人口の減少、また大都市に集中をするというようなことがあらわれております。当市におきましても、その例に漏れず、減少傾向にあるということは紛れもない事実でございます。周辺地域では、武雄町内以上に少子・高齢化が急速に進んでおるわけでございます。

教育長は、長い間教壇に立って教鞭をとってこられたわけでございますが、教職員になられた当時と、教育長になられた現在を見ますと、子供の数が激減をしていると思います。子供の数が減ったことに対する教育長としての思い、心情をまずお聞かせ願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

○庭木教育長〔登壇〕

私が教壇に立たせていただいたのが昭和38年でございます。伊万里市の大川小学校というところに赴任をいたしました。そのときの1学級の定数は45名ということで学級編制がなされておりました。当時、大川小学校は1,570人ばかりおりました。現在は120人ちょっと（195ページで訂正）でございます。

私がやめました朝日小学校は、平成13年3月でございますが、そのときは1学級の定数が40人学級ということでございましたが、もう朝日はそのときは40人を切っている学級がほとんどでございます。

確かに、子供たちの数が減ったことは、私の37年間の現職生活の中で肌で感じるわけでございますが、45名の1学級の定数のころは確かに活気はありましたが、学級担任をする教職員にとっては、まず名前を覚えるのに一苦労。学年の子供たち、200名以上の子供たちの名前を覚えるのは一苦労でございます。よほど気をつけておかないというと、自分の担任する子供たちと1日1回の会話を抜かすときもあったことは、私が反省するところでございます。

しかし、現在、子供たちを見てみますと、多くても40名そこそこでございまして、少ないところは10何名ということで、この子供に接する時間というのは、非常にやりやすくなっただろうと思いますが、社会の環境等が大きく変化する中で、学級担任の心配りもまた大変

だろうなと思っております。

しかし、学校の規模が大きかろうと小さかろうと、子供を思う教育をする立場の者は一つも変わりませんが、それぞれの地域での特色をどう生かすかということで、実践活動にはまっているのが教職員であろうと思います。しかし、子供たちの小さな命を育てていくのには、やはり社会性というものも育てていかなきゃなりませんので、小さい規模の学校になりますというと、そのあたりについても大変だろうなと。で、今は各現場におきましても、きのうも申し上げさせていただきましたが、縦集団活動の多様な展開等もして、何とか子供たちの社会性というものを身につけさせる努力もしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7 番古川議員

○7 番（古川盛義君）〔登壇〕

教育長が教壇に立たれた当時と今とすれば、教育環境は激変しているわけでございます。なぜ子供の数が減ったのかと私なりに考えてみました。日本の高度成長期、労働力の確保ということで、多数の女性の方が社会進出をされました。しかし、これ自体は決して悪いことでも何でもなく、大変喜ばしいことでございます。しかし、一方、受け入れる側、企業側に問題があったのではなかろうかと。時間外労働、産前産後の休暇、育児休暇などの整備をせずに、企業利益への追求に走った結果ではなかろうかと思うわけでございます。

そこで、出生率の問題でございます。出生率が全国平均でいかほどあるのか。佐賀県武雄市ではどうなっているのか。また、今後どのようになると予測をされるのかお尋ねをし、また企業で産前産後の休暇、育児休暇など取得状況がわかればお知らせをいただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

○中原福祉保健部長〔登壇〕

お答えいたします。パネルを使って御説明申し上げます。

まず、出生率の推移でございます。

本年6月に、厚生労働省で人口動態統計の概数が発表されました。その資料でございます。

1947年、戦後4.0以上あったものが、一時期、第2次ベビーブームの段階で持ち直しましたが、戦後急速に落ち込みまして、現在は徐々に落ち込んでいるという状況でございます。

現在、厚生労働省の発表では、概数では1.25でございます。合計特殊出生率でございます。1人の女性が生涯に産む子供の数の推定値として使われております。

なお、人口を維持していくための数値としては、これが2.08というふうに言われているところでございます。かなり落ち込んでいるという状況です。

昨年、生まれた赤ちゃんの数は、日本全国で106万2,600人でございます。出生数から死亡

数を引いた自然増加数は、マイナスの2万1,000人というふうに発表されております。これについては、統計をとり始めて以来、初の減少となったということが報告されています。政府の対策にかかわらず、少子化に歯どめがかかっていない状況でございます。

なお、佐賀県の合計特殊出生率については、1.44ということで発表されております。

なお、合計特殊出生率1.25と申しましたが、その後確定がされまして、1.26ということになっているところでございます。

なお、これとあわせて、結婚したカップルは前年より約6,000組減、それから晩婚化が進んでいるということで、あわせて報告がされているところでございます。武雄市の合計特殊出生率については、データとして調査しておりませんので、不明であるところでございます。

なお、自然増加数を見ますと、平成17年度の実績で出生数446人、死亡数579人で、マイナスの133人でございまして、今後、このような傾向は続くということで、武雄市においても、少子・高齢化が進んでいくものというふうに考えております。

育児休暇についてでございます。

これについても武雄市の調査はございませんで、平成17年度佐賀県労使関係実情調査がなされておりまして、その結果により報告をしたいと思っております。

県の調査対象が、常用者規模30人以上の民間企業より抽出した343事業所を対象として、回収は211事業所、61.9%でございました。

育児休業の取得状況でございますが、平成17年度の割合を女性の取得率で見ますと84.2%でございます。全体の139人に対して117人が取得していると。未取得者が22人で15.8%になっているということです。

なお、あわせて、男性の取得状況も調査されておりますが、配偶者の出生に対して、男性の取得者は県全体で1名ということで、0.4%という状況が報告されているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

出生率、出生数においても、非常に厳しい状況にあるという報告でございました。

通常、夫婦に子供が2人いて、プラス・マイナス・ゼロと。今、2.08と言われましたが、3人いて初めて少しふえるということになろうかと思います。佐賀県でも1.44ということで減る一方でございます。

以前、私がちょっと聞いたことあるんですが、産休とか育児休暇をとった場合に、終わって会社へ入社し、そのときに机があるだろうかと。前と同じような仕事ができるだろうかと、そういう状況にあるから、休暇はなるべくとらないというような話も聞いたことがあります。このようなことも一つの要因ではなかろうかと思います。

もう一方、高齢化の問題でございます。今から団塊の世代、私も含めてなんですが、多数退職をされると思います。全国平均の高齢化率並びに佐賀県武雄市の状況を教えてください。そして、これらに対して、高齢化になってまいりますので、それに対応した対策も必要になると思います。どのようにお考えなのか、お聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

○中原福祉保健部長〔登壇〕

高齢化率について御説明申し上げます。

御質問の全国の高齢化率でございますが、総務省統計局推計人口月報で、平成18年7月時点の分でございますが、20.7%になっています。右から2番目の表でございます。

それから、佐賀県でございますが、佐賀県推計人口で10月時点でございます、23.1%となっております。

武雄市の状況でございます。10月時点の数字でございます、平均でいきまして24.02%となっています。中身について若干説明いたしますと、高齢化率30%を超えている地区については、若木町と武内町でございます。それから、武雄町については、19.81%ということで20%を切っているところです。全体を見まして、少子化と同様、高齢化が進行しているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

市長

○樋渡市長〔登壇〕

今後の高齢化対策、ちょっとこれは福祉の分野と切り離して申し述べたいことがあります。というのも、一つの参考になるのは、長寿の国沖縄の例であります。沖縄で今どがん展開ばしよんさっか、これをちょっと調べて行ってみたとですね。そいぎですね、例えば、古民家で沖縄そばを出したいとか、あとフーチバーといって、山内の黒米でつくんさっごたっませ御飯ば、本当は60円ででくつとば850円で売りたいよんさっわけですね。非常にもうかっておられます。ナイスチャンスです。

武雄の場合には、食ぶところのなかっていうとは結構あるわけですね。観光客の皆さんがこういうアンケートばとったら、多分一、二位になると思います。だから、そういう意味で、古川盛義議員のおひざ元である多々良のにきに、物すごくおいしかうどんが、鯨のだしでとった、出すところもあんさっですね。ああいったところで、自分の家のところを出す、そういったのが今非常に喜ばれると思います。

その証拠に、今北方町のわらべってできたですね。うどんとそばを出しんさっところですね。あそこも、私、何回か行ってみました。もう入られんですね。特別扱いもしてくんされんです。そういう意味で、私は非常に喜んでおります。

だから、そういう意味で、何か建てるとかではなくて、もともと武雄の場合、古民家とか結構ありますね。そういったところで、そういうふううどんとかそばとか出す、そして、観光客の方を呼ぶ。あるいは、地元の人たちと、三夜待の延長になるかもしれませんが、そういうビジネスができないか。

これで最後にしますが、「佐賀のがばいばあちゃん」で、やっぱり観光客に聞き慣れた、食ぶところのなかでやっぱり言わすですね。そいけんが、例えば、淀姫神社の近くであったりとか、あるいは山内の水神さんの近くであったりとか、何かうどんとかそばとか出してくんさっき、私としても、市長としても非常にありがたく思っておりますし、それが、ひいてはおもてなし、そして働く場、そして、まあそがんいっぱいじゃなかかもしれませんが、所得の一つの方法になるのではないかなと熱く期待をしております。

○議長（杉原豊喜君）

7 番古川議員

○7 番（古川盛義君）〔登壇〕

市長の思いはわかりますが、出生率は低下し、高齢化率は上昇するということに変わりはないわけでございます。近い将来を考えると、恐ろしいような事態が待っておるということでございます。実際に労働力として生産活動を行う人口が減っていくという時代になります。

武雄市の基幹産業であります農業においても、そのことは深刻でございます。私の地区におきましても、現実として家すら存続できないと。後継ぎがおらんというところも出ております。将来、そういうところが多くなるであろうと思います。高齢者増における農業対策などどのように考えておられるのか、お聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

少子・高齢化が進む中で、例に漏れず、農業に携わる人口につきましても現在減少が続いておりまして、その結果として、耕作放棄地が発生をいたしております。

このような状況のもとで、地域の農業生産を中心に担う農業と、高齢者農家や兼業農家との役割分担について、合意形成を図りながら、担い手の農地利用集積を進めていくことが必要であるというふうに考えております。このため、現在、その担い手として、集落営農組織の設立を推進し、耕作放棄地の拡大を防止するということにいたしております。

○議長（杉原豊喜君）

7 番古川議員

○7 番（古川盛義君）〔登壇〕

先日、九州農政局農政事務所ですか、そこから集落営農組織が佐賀県に463あるというこ

とをお尋ねいたしました。この数字が多いのか少ないのかは私はよくわかりません。だけど、集落営農組織は、中山間地域では大変やりにくいと。集落人口の減少、高齢化は確実に進んでいる。農業は続けられない家も出てくる。このような状況の中、耕作放棄田を集落営農組織が一手に引き受けてやるというのも非常に難しいと。デスクワークはどんな人でもできるんですが、実際はそういうわけにはいかないと。そうなってくると、農業後継者の育成というのが急務になってくるわけでございます。その後継者問題をどのようにお考えでしょうか、お願いをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

農業経営の安定を図るために、担い手づくりとしまして、認定農業者や集落営農組織の設立の推進に現在至っているところでございますけれども、議員おっしゃるように、農地が狭く、散在をしております中山間地域につきましては、集落営農組織の設立が困難なところもございます。

このため、中山間地域等直接支払制度、こういうのがありますけれども、これを活用して中山間地域の農地保全を図っているところでございますが、さらに平成19年度からは、新たに農地、水、環境保全向上対策制度が始まります。これらの制度を活用いたしまして、農村環境の形成を図りながら、農業従事者であります担い手を育成していきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

部長の答弁に加えて、私はその担い手は無理してできるもんじゃなかなと思います。やっぱり職業につくとき、例えば、古川少年がいつか議員になりたいと、武雄市議会格好よかというふうになる。あるいは、古賀少年が、いつか自分は市の職員になるんだと、前向きな意味で。まあ私は、ひとしく職業はきつかもんだと思っています。しかし、担い手になろうという予備軍の人たちが、やっぱり農家ば継ぎたかとか、なりたかとか、前向きに思わん限り、どがん対策しても私は無理と思います。そういう意味で、JAの皆さん、あるいはうちも経済部を抱えています。農業が本当に魅力ある職業なんだということを、あるいは農業経営者の皆さんもそうです。ぜひ、そればアピールばしてほしかと思います。

現に今、山内のチンゲン菜であったりとか、黒尾のスイートピーとか、あとはキュウリであるとか、私見よっても、何かライフスタイルとしてもこれ、つらかと思いますよ、しかし、何か格好いいと思わせるだけの力の出ているところのあるわけですね。それをもう少し

広げるようなことを、古川議員の力強い政治力で頑張ってもらいたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

7 番古川議員

○7 番（古川盛義君）〔登壇〕

大変きつい市長からのお言葉でございますが、これは私一人でできるものでもございせんし、またいろんなことをしながら農業発展、武雄の基幹産業でございますので、いろんなことを考えながら、いい方向に向かうようにしていきたいと思います。

その一方、交通手段の多様化、高速化に伴い、生活環境が以前と急変をしております。今、どこに住もうかというときに、生活環境の整備が整ったところに住むわけでございます。住みたいと思うわけでございます。

武雄市は、上水道は市内全域に完備をされております。下水道が市内に完備をされた場合です。水道課にお尋ねいたしますが、配水管の対応などはどうなっておりますでしょうか。また、現在の配水量に対して、下水道が完備したときの排水量をどれくらい予想されておられますか。また、下水道が完備されたとして、雨がどれくらい降らなくて、何カ月間配水、断水をせずに対応ができるのか。まあ予測でございますが、水道部長お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤水道部長

○伊藤水道部長〔登壇〕

それでは、お答えいたします。

まず、管路関係の決定根拠でございますけれども、管路関係の決定根拠につきましては、下水道用水を含めた生活用水、また営業用水は、今後の開発等を見込んだ上で、管径について決定をしているところであります。

また、武雄水道につきましては、その後の消火栓の設置や通水障害等も考えて、管路末端部については75ミリで整備をしておりますので、今後、進められるであろう下水道計画についても、十分対応できる管径となっているところであります。

次に、下水道を整備した場合にどれぐらいになるかということでございます。

今現在でございますけれども、1日平均給水量が1万4,400トンでございますので、この分の約900トン程度、1日平均で伸びるんじゃないかということで1万5,300トンぐらいで見込みをしているところでございます。

次に、干ばつ時にどれぐらいもつかということでございます。

干ばつ時に、貯水地でありますダム等の水位の問題があって、なかなかお答えをしにくいところもありますけれども、まずもって、これが満水状況にあるという前提で考えましたところ、今武雄市水道が保有する貯水地としましては、転用ダムも含めまして6水源持っているところであります。この貯水量、水道が持つ、水利権を持つ水道の貯水量としては207万

トンございます。これを今の平均給水量で割り返しますと、下水道をしない状況であって約5カ月間、それから、下水道を完全に整備したとしても4.5カ月程度は断水をせずに耐え得るだけの、今水道部としての力はあるというふうに見込んでいるところでございます。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

水道部長から、水の問題は大丈夫だという力強い答弁をいただきました。水道部長、今まで水道料を下げろ、下げろということに対する答弁ばかりで、きょうは余り緊張せずにお答えいただいたようでよかったんですが、私、何で水のお話をするかと申し上げますと、42年の大渇水時のことが私、いつも頭に浮かぶわけでございます。42年の大渇水以降、いろんな人が苦勞を重ねられて、水資源を開発していただいて、今の現状にあらうと深く感謝をするところでございます。

この大切な水を使う下水道の件でございます。公共下水道、農村集落排水、合併処理を合計して、整備率は全国で何%なのか、また佐賀県は何%ぐらいか、武雄市の状況、それから周辺地区の状況も踏まえてお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

○大石建設部長〔登壇〕

汚水処理人口の普及率についてお答えを申し上げたいと思います。

平成17年度末で全国平均が80.9%、佐賀県が61.1%で全国第40位となっております。新武雄市では41.7%ということになっております。

本市の旧市町別普及率でございますが、武雄が32.6%、山内が84.2%、北方は30.6%となっております。

ちなみに、隣の鹿島市が37.4%、それから嬉野市が38.4%、そのような状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

人口減を抑えて、居住人口を増加させるためには、生活環境の整備というのがどうしても必要になると思います。お隣の江北町では、下水道整備以降、多少人口が増加したという話を聞いております。このような状況の中で、居住環境のレベルアップがどうしても必要であると思います。下水道対策はどのように考えておられるのか、企画課、下水道課にお尋ねを申し上げます。

○議長（杉原豊喜君）



大石建設部長

○大石建設部長〔登壇〕

本市の下水道対策について申し上げたいと思います。

本市の下水道対策は、公共下水道、それから農業集落排水、それと浄化槽設置補助の3事業で行っております。

未着手地域の整備計画につきましては、現在作業中の下水道整備基本計画、これを策定した後、引き続き、下水道整備計画を策定する予定でございます。

なお、同時に、使用料の統一についても検討を行うことにしておりますので、その結果等を踏まえ、本市の財政状況に見合った事業の種類、規模、実施時期等について決定をしてみたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

江北町のはよくわからなかったんだと思いますが、江北自体は、企業誘致もここ数年ではなく、インフラ整備の効果であろうと推測をいたしております。生活環境の整備が人口増につながるということも言えるかと思っておりますので、早急な対策を御検討いただきたいと思ます。

次に、ことし、全国で大学受験者が119万人、全員合格の時代が来たと言われよるわけです。1992年に205万人やったと。85万人から90万人ぐらい受験者が減っておるわけです。このような人口減少の中で、合併協議会の資料で、2015年に人口が5万人を切るという予測をしておられました。

そこでです。新市の基本計画の人口推計というやつを見ますと、2015年に5万2,400人になると。現在より少し減る程度ですか、1,000人ぐらい減るんですかね、ような計画になっております。合併協議会の資料と新市の基本計画の差のこの3,000人というのは、どういう根拠なのか、御説明をいただきたいと思ます。

○議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

○前田企画部長〔登壇〕

お答えをしたいと思います。

お尋ねの人口の推計でございますが、先ほど言われましたように、合併時の協議会どおりに出しております新市の建設計画がございますが、その推計については、平成12年の国調人口をもとにしまして、平成27年、いわゆる合併後10年先の見込みでございますけれども、これについては、コーホート要因法という方法で推計がされまして、その推計でいきますと4万9,435人となるということで、それに子育ての支援、あるいは企業誘致等で若年層が定

住できる環境の整備をしていこうということで、それを約3,000人程度見込んでおります。そういうことで、10年後については5万2,400人ということで推定値を出しているということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

2005年から2010年までに、5年間で200人、5万2,600人ですか。それで、2010年から2015年までで200人の減と、5万2,400人となっておるわけでございます。

実際にこのようになれば一番いいんですが、現在、小学校6年生が628人でございます。2歳の子供が455名、1歳児、生まれたばかりですね、430人、ここで11年間で約200名、自然に子供が減っておるわけです。今、人口推定の400人の半分は子供が既に減っておるわけです。出生率がどんどんどんどん下がって、高齢化率も進んでいく。それで人口が400人しか減らないというような計画というのはどうかと思うわけです。

3,000人の差を埋めるために企業誘致をということでございますが、現在あります若木の工業団地、地元武雄市からどの程度勤務をされておるのか、お知らせをいただきたいところです。

○議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

○前田企画部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

お尋ねの若木にあります武雄工業団地でございますが、現在9社が入っております、全体の従業員が、これはパートも含めてございますが、500人強ございます。そのうちに、市内の方が約40%、それから市外の方、これは伊万里、多久、それから有田、周辺の市町村からの通勤者でございますが、市外の方が半分以上の6割を占めているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

4割近くの方が市内の方で、6割が市外から通勤をされておるということでございます。市長の言葉をかりて非常に悪いんですが、これはナイスチャンスです。ビッグチャンスでございます。

お隣の伊万里市にSUMCOが工場を増設します。人口増対策として、武雄に住んで、伊万里へ通勤するということも一つの政策としてやるべきではなかろうかと思います。その点、いかがでしょうか。

また、当市の企業誘致の状況、それから、工業団地の造成計画などをあわせて御答弁をいただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、伊万里のSUMCOの件で、私から答弁をいたします。

今、SUMCOの件は、きのうも牟田議員から工業用水の話が出ましたけれども、現実課題として、もう進出は決定をしております。それで、今SUMCOさんがどこに寮ば建ちゅうかなと、どこに社員マンションですか、建ちゅうかなということで物色ばしよんさっです。ね。ナイスチャンスです。今、大田副市長を中心として、企業が伊万里なら、住むところは武雄ばいということで、本当に一生懸命動いてもらっています。大田副市長、よろしくお願いします。

その上で、今の企業誘致の現状であります。年度内に、20人から30人規模の企業、半導体工場を誘致する方向で今最終段階に入っております。ただ、今詳細に申し上げられないのは、これはほかの県から引っ張ってくっけんですね、がばいばあちゃんと一緒に、今熾烈な争いを実はしております。これまた、大田副市長の力量が、まさに外政担当として問われるところにあります。そういう意味で、私もこれはトップですので、一生懸命やりますけれども、これは市を挙げて誘致に向けて今頑張っております。年度内にきちんと公表ができるように頑張ってまいります。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

武雄に住んで、伊万里へ通勤するというようなことが、社員寮なり、マンションなりができて、そういうことが実現すれば非常に喜ばしいことだと思います。

そこで、少子化の問題に戻るわけでございますが——ちょっと飛びまして、済みません。これは、居住人口がふえるということは、子供もふえるということでございます。少子化の原因ということは、先ほども答弁にありましたように、結婚する人が少なくなったということが第一の原因なんでございます。

これは武内の問題でございますが、現在700戸近くの家があります。その1割強が適齢期ちょっとぐらいのひと、お父さん、お母さん、ちょっと高齢の方との2人、または3人暮らしになっております。数年後、家もなくなるかもわかりません。農地も荒れるかもわかりません。財産の管理もできないような状態になるかもわかりません。このような状態は、武内だけの問題ではなく、武雄市内全域に言えることであろうと思います。人口減の対策として、結婚対策とか少子化対策をやっている市町村があったら、また、武雄市でそのようなことを

取り組まれているような状況があれば教えてください。

○議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

○前田企画部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

お尋ねの、結婚の場の提供ということでございますが、まず県の事業として、これについては平成12年度、それから13年度に出会いのプロデューサー活動支援事業というのが実施をされております。結果的には、結婚という成果は得られなかったということで、これについては13年度で廃止がされているということを聞いております。

それから、県内の他の市町等の実施状況でございますけれども、事例として、伊万里の方で、これは農業経営相談事業、この中でやっておるということです。

それから、玄海町の方で、これも農業関係と思いますが、後継者等育成相談事業というのがあるようでございます。

それから、ここの周辺においては杵藤広域圏管内、ここでドリームキャッチ12、これは12月に開催されますけれども、クリスマスパーティーが開催されております。これについては、既に募集が始まっております、ことしが男女各40名の募集に対しまして、もう既に定員を超えているという状況が出ています。

ただ、これについては、昨年も男女40名中17組のカップルはできたということですが、これは13年度からされておまして、今までに結婚の事例は2組ということで聞いております。

以上が県内の状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

部長の答弁に補足をします。先ほどの2組も、恐らく届けとらんともあると思います。もう少し実態はふえておるというふうに期待をしております。

その上で、私はこの前、あるテレビを見まして、もう随分前ですけども、どういうテレビかというと、農家に、パーティー会場とかじゃなくて、農家に実際、都会の娘さんがそこに来て、そこで例えばレンコンば掘ったり、山芋ば掘ったり、あるいはスイートピーばつくったりとか、そういう実際働く姿を見せながら、そがんなぎんたですね、無口な私のごたっ男性も、働きよる場はやっぱり物すごく語るわけですよ。これはこがん折らんばいかんとか、これはこっちにこうつまんばいかんとか。私はそういう体験型の出会いですかね、そういったのがやっぱりよかかなというふうに実は思っています。

そして、泊まるところも、当該の農家に泊まるのはちょっと問題があった場合には、その近くの、例えば、区長さんのおうちとか、私はそがんとこで分離して、また次の日の朝は、

朝から一緒に農作業をすとか、私、そういう、結構皆さん笑いは出よるばってんが、すごくよかなって思っています。その証拠に、私はバルーンフェスタのときに、ボランティアでカレー屋さんの手伝いに行きました。そのときに、福岡から手伝いに来とんさった女性が3人おんさったですね。私が言う前に、私は農家の人と結婚したいと、恐ろしゅうよか娘さんやっただす。だから、そういうのを、ニーズもあるわけですね。そういう場を武内の多々良でつくってくれんでしょうか。

いや、実際、ここで議論すつともよかです。しかし、これは体ば動かさんぎんた、どうにもこうにも私はならんと思っています。そういう意味で、ほかのできんようなところ、武内は物すごくそういう意味で農業に、私はよかところと思います。風景もよかです。八幡岳も見えます。そういう意味で、ぜひ武内で先鞭をとっていただければありがたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7 番古川議員

○7 番（古川盛義君）〔登壇〕

昔々を思い出しますと、がばいばあちゃんじゃないんですが、私の近所にも世話やきじいちゃん、世話やきばあちゃんがおられたわけでございます。その人たちが、あすけ息子のおるばい、あすけ娘のおるばいというて、結婚をさせよんさったわけですね。その仲立ちをしてもらいよったわけです。しかし、そういうことが今はほとんどないと。交流も、隣近所の交流、地域間の交流も薄くなって、そのようになってきておるんだろうと思います。こういうことも高度成長の負の側面であろうと私は思うわけでございますが、そこで、地域と公民館とか、行政とが一体になって結婚を勧める運動とか、結婚して、子供が一人っ子のところにもう1人つくらんねというような運動をやってみたらどうだろうかと考えるわけでございます。

地域にできることは地域でやらにゃいけないと思っております。しかし、行政にしかできないこともあると思います。その分担をしながら進めていくということをひとつお考えをいただきまして、私の一般質問を終わらせていただきます。